



さかもと

さわやかに かがやいて たくひょうもって ともにあゆもう

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sakamoto/>

「想定外」は常に起こる

校長 神倉美智子

連日ニュースで報道されていますが、4月14日に、熊本県で最大震度7の大地震が発生し、その後2週間たっても未だに余震が収まっています。耐震構造で安全だったはずの建物も、繰り返される大規模な余震にはさすがに耐えきれず、壁が崩れたり、穴が空いたりしているそうです。そんな想定外の地震に、現地の人々は家に戻ることもできず、不安な避難生活を余儀なくされています。横浜市は熊本を始めとした九州地方から、多くの方を教員として採用していますが、実家の被災状況を心配しつつも、気丈に勤務を続けています。横浜市教育委員会でも、熊本地震被災者に対する支援募金口座を開設し、支援に向けて動き始めました。私も先日、微力ながら協力してきました。被災地の皆様に、心からお見舞い申し上げます。

思えば、20年前の阪神淡路大震災、5年前の東日本大震災、そして今回の熊本大震災と、以前は100年に一度来るといわれていた大地震が、短いスパンで立て続けに起こっています。阪神の時は建物の倒壊とその後起こった火事で、東日本の時は津波で、そして今回は、倒壊した建物と土砂崩れでと、それぞれ違う要因で多くの方が亡くなっています。私たちはその貴い犠牲から、新たな防災を学んでいかなければなりません。

阪神淡路大震災の時には、地震で停電していた電気が復旧した時に、それまで切れていた電気ストーブ、コンロ等に自動的に通電し、火災が発生したと聞いています。今は、大きな地震が起きたときに自動的に家のブレーカーを落とす装置を販売しています。坂本町内会の方に教えていただいて、我が家にも設置しました。

東日本大震災の時は、横浜もかなり大きくゆれ、被害も出ました。私は当時、港北区の学校に勤務していましたが、地震が起きたときにはすでに1年生は下校した後でした。1年担任は、各家庭を訪問して児童の帰宅を確認し、2年生以上の子どもたちはメール配信をして、全員を保護者の引き取りとしました。ところがみなさんご存知の通り、あの時はあらゆる公共交通がストップし、道は大渋滞。勤務先から帰ってこられなくなった保護者は歩いて戻るしかなく、最後の子どもが引き取られたのは夜10時近くでした。それまでの間学校では、残った子どもたちの不安を解消すべく付き添うと同時に、他の職員がコンビニに走り、引き取りを待つ子どもに食べさせる食料を購入しました。子育て中の教職員は先に帰りましたが、区役所や市教委との連絡もなかなか繋がらず、かつて経験のない地震の後始末に、悩み、迷いながらの対応でした。

そんな中、8時を過ぎた頃になると、帰れなくなった帰宅困難者が次々と学校を訪れ、体育館を開放して受け入れの準備を始めました。防災備蓄庫の中の毛布(20枚しかありませんでした)を全部出し、体育用のマットを敷き、学校中の移動式ストーブを全て貸し出しましたが、天井の高い体育館はちっとも暖まりません。PTA会長の差し入れてくれた大量のみそ汁や熱いお茶を帰宅困難者にも配り、暖を取ってもらいました。結局、私を含め、数人の教職員は帰宅できずに職員室で一晩を過ごすことになりましたが、12時を境にエアコンが自動停止し、何としても動きません。毛布も全て貸し出してしまっていたため、ロッカーに置いてあった服をとにかく着込んで、寒い夜を明かしました。

先日学校では今年度最初の避難訓練を行いました。4月は火事の想定でしたが、学校では毎月違った想定で避難訓練を行っています。「想定外」という言葉が震災の度に聞かれる昨今ですが、こういった日頃の訓練があつてこそ、「想定外」の災害への対応も考えられるのだと思います。

今年度は8月末に引き取り訓練を、そして10月には地域と共同の防災訓練を行います。いざという時のために、日頃の訓練に、是非ご参加・ご協力をお願いいたします。

